

兵庫県内で70年ぶりに再発見された

ふせい

腐生植物

シロシャクジョウ



丹波自然友の会・兵庫県立人と自然の博物館

2010年8月、丹波市内で開催された「丹波自然友の会」の観察会中に、会員らが「シロシャクジョウ」を見つけました。2011年8月には県立人と自然の博物館の研究者らも同行して生育を確認し、証拠標本（学術標本）が作製されました。腐生植物「シロシャクジョウ」について、ご紹介いたします。

白錫杖

シロシャクジョウとは？

シロシャクジョウ(*Burmannia cryptopetala*)は、ヒナノシャクジョウ科の腐生植物です。腐生植物とは、光合成をせずに、共生する菌類から栄養を吸収するという特殊な生活をすする植物たちを言います。光合成をしないので、緑色の葉は持ちません。日陰に生える南方系の植物で、分布の北限は福井県だとされています。



シロシャクジョウ再発見の重要性

シロシャクジョウは、兵庫県版レッドリストでAランク*に指定されている植物です。兵庫県では、1941年（昭和16年）に細見末雄氏によって旧氷上町（現丹波市）で採集された標本が残されていただけで、その後の生育状況は不明でした。よって、今回は実に70年ぶりの再発見ということになります。この植物が現在も県内で生育していることが明らかになると同時に、貴重な学術標本の作製も行われました。今後の調査研究に大きく寄与することでしょう。

*環境省レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類に相当。兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種など緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種をさす。



県立人と自然の博物館に収蔵されていた細見氏の標本（1941年採集）

シロシャクジョウのすがた

右の写真は縦に切った花。短い雄しべと一本の雌しべが見えます。花筒には翼が発達します。



黄色く見えるのは3枚の外花被片（萼に相当するもの）。花びらはありません。



葉は白色で鱗片状に退化しており、光合成をしません。



地上部は高さ10cm程度の小さな植物です。今回見つかったのは約千株からなる大群落でした。



今回採集された株の根は、いずれもヒノキの腐朽材にからみついていた。ヒノキと共生する菌類とは関係があるかもしれません。

生態や分布がよく分かっていない生物は「知らない間に絶滅している」事があります。ひとつでも多くの種を次世代に引き継ぐには、地域の愛好家や研究者らによる地道な調査や研究が必要となります。

こんな植物を見つけたら...

ぜひ兵庫県立人と自然の博物館までご連絡ください。研究者が調査に伺います。電話：079-559-2001（代表） <http://hitohaku.jp>